

ともえ



行動する
はつらつたる
商工会議所



旧ロシア領事館 (道南青年の家)

No. 114 函館商工会議所報
1990 — 11月号

はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。

みなさまの



函館信用金庫

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241代

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247代	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820代
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221代	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711代
ばんたい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236代	上磯支店	上磯郡上磯町飯生町2丁目4番24号	TEL73-2151代
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511代	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111代
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL26-3646代	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501代
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238代	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121代
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492代	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611代
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521代			

Lhのみカードローン

20万円から200万円まで

使い方自由

らくらく返済

担保・保証人不要

★詳しくは窓口へ
お問い合わせ下さい。

あなたの預金で郷土を拓く。



函館商工信用組合

本店 函館市千歳町9の6 ☎代23-2101

- 湯川支店 ☎57-0572代
- 上磯支店 ☎73-2308代
- 美原支店 ☎46-9121代
- 十字街支店 ☎26-5544代
- 花園支店 ☎55-2110代
- 富岡支店 ☎43-1311代

視 点	1
会議所の動き	2
地域の景気	6
調査レポート	8
寄 稿 文	12
共済推進コーナー	14
テイータイム	15
アドバイスコナー	16
Q & A	18
ご 案 内	20

◇表 紙

旧ロシア領事館（道南青年の家）
 安政元年（一八五四）十二月の日露和親条約と同五年七月の日露通商条約に基づき、同年九月ゴスケイウイチチが初代箱館領事として着任し、翌年元町のハリストス正教会敷地内に領事館を建てたが再三の火災で焼失したことから、明治四十二年現在の地に再建された。
 昭和十九年アレキサンドル・ザビリエフ領事が帰国したのを最後に閉鎖され、昭和三十九年外務省から市に売却された。

● 視 点

平成二年もあと一月余を残すのみとなりました。本年は全般的に暖い気候に恵まれ、農作物も豊作となりましたが、異常気味のお天気が、今冬をどのように演出するか、一寸気になるところです。

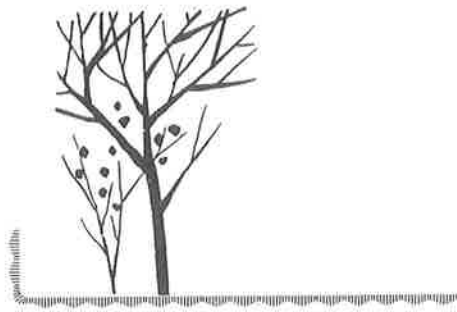
今年の函館は、金利高、地価の高騰、雇用確保難などが進み、公定歩合の引続く上昇、そして株価の大幅下落等経済変動の幅も小さくはなかつた中で、好況をよく持続することができました。

しかし、先行心配がない訳ではありません。それは日本を取巻く世界の情勢、特にソ聯邦を始めとする東欧諸国の市場経済導入に際しての混乱、イラクによるクエート占拠の継続、アメリカの二大赤字対策などの外的要因のほかに国内的には、先にあげた金利、地価、雇用問題をどう解決していくのかという見通しが難しいからだと思います。

また最近では、労働力不足を反映してか初任給の大幅上昇等による人件費の増加や、原油価格の高騰が円高のメリットを打消し、コストを押し上げてきていることもあり、経常利益の減少が広く見られるようになってきています。

このような状況の中で、当地ではテクノポリス函館計画も順調に進み、青函インターブロック交流圏構想も遂次進行してきています。そして現在の活況を支えてきた観光はなお元気でいます。一方、世界の情勢には予断を許さないものがあるため、情報を収集、分析し、それに相応する諸準備を整え、即時即断の体制を固めておくことが大切です。

会議所の動き



当市で日商常議員会開催

去る十一月十四・十五日の両日函館ハービービューホテルを会場に日本商工会議所の（移動）常議員会等が開催され、石川六郎日商会頭をはじめ、全国の常議員日商会議所から会頭、副会頭、専務理事など九十人余が出席しました。

この会議は、日本商工会議所の議決機関として、東京で開催のほか、毎年二回は地方の常議員会議所において開催されるもので、北海道では四回目となりますが、当市での開催は初めてです。

まず、（移動）常議員会の前日



▲石川日商会頭(右)と本所川田会頭(左)

の十四日には、日商の代表専務理事会議と全道商工会議所会頭懇談会が開催されました。全道の会頭懇談会では、札幌、旭川など二十八会議所から会頭、副会頭など約四十人が参加しました。懇談会では本所川田会頭が歓迎の挨拶を行い、次いで北海道通産局の工藤富之局長より「最近の経済情勢と通産行政の方向」と題する講演が行われ、その後、道内経済の現状などについて意見交換しました。

夜には夕食懇親会が開催され、全国各地から集まった役員の方々が懇親の一時を過ごしました。

（移動）常議員会の開催当日は、まず日商の正副会頭会議が行われ、

委員会による調査研究が活発化

総務委員会

本紙五月号で既報のとおり、本所の会費等が昭和四十八年以降据置かれている現状などを踏まえて、今後予想される事業量増大などに

開催地として川田会頭が特別出席し、現地の経済状況を説明した中で北海道新幹線建設実現について強く支援方を要請しました。次いで開催された（移動）常議員会では、大規模小売店舗法の改正に向けての検討状況や今年度の主要事業についての中間報告などについて事務局から一括して報告されました。

常議員会終了後には、石川日商会頭が記者会見し、北海道新幹線の実現については、四全総に示されているように、二十一世紀に向けて国土の均衡ある発展のために是非必要である。また、青函インターブロック交流圏構想についても、その将来性が大いに期待できることから、今後も支援していきたい旨の発言がなされました。

対応した会議所運営のためには、財政基盤をより強固にしておく必要があるとの立場から、五月より三回にわたり総務委員会で総合的に調査検討をすすめて参りました

が、去る十一月九日の同委員会最終対策案を取りまとめました。

これは会員の皆様とともに役員の方々にも応分の負担増をお願いするとともに、退職金などを含め事務費の節減をはかる一方で、優秀な人材を確保して今後の事業拡大に対処し、もって経済の発展に寄与するというものです。

また、従来行われてきた会費等の納入についても、新年度からは預金口座振替制度(自動振替)を導入し、会員皆様の利便性をはかることとしました。

文教委員会

かねてより、高等教育機関の整備拡充等について調査研究を行ってきた文教委員会では、去る十一月九日本所会議室で第四回の委員会を開催しました。

当日は、まず北海道教育大学函館分校の奥平忠志教授(同大学将来構想委員会委員)より、同大学函館分校独立についてのその後の経過と、同大学の国際交流について説明がなされました。

同授教は、文部省では平成二年

度予算に同大学の将来構想立案のために三百万円の調査費を計上したが、これは同大学の将来の在り方に重大な関心を寄せている証拠でもある。これを受けて大学側も函館分校の独立を含めて将来の在り方を検討しており、また分校自身も検討委員会を設置して、独立する際の学部検討等、従来より積極的な動きを示している。しかし、

国では大学の新增設を数年後には認めないとする厳しい姿勢を示しており、今が地域を挙げて国立函館大学実現に向け、推進すべき最

函館・青森商工会議所 青函圏特別委員会合同会議

函館・青森両商工会議所青函圏

特別委員会合同会議が去る十月二十二日、青森メモリアルシップ八甲田丸内において開催されました。

会議では平成二年度の事業計画七項目の中から(1)第二国土軸を形成するための青函間交通体系のあり方 (2)青函経済サミットの開催などを中心に協議がなされました。

東北・北海道側がかねてから東京・仙台・札幌のラインを第二国土

も大切な時期でもあるとし、今後の課題として大学用地の確保などを指摘されました。更に独立に有利な要件の一つでもある国際交流

基金一億円の目標に一日も早く達成すべく同窓生にも強く呼びかける予定であり、経済界、一般市民のご協力も是非寄せていただきました。委員会の発言がありました。

委員会ではこの外に、函館市国際交流基金の創設の動きや、七飯町の世界を結ぶ北緯四十二度の里計画案策定などの状況についても報告がありました。

軸として、東京・大阪・福岡に続く産業・経済の中核ラインとして

整備すべく主張してきました。この第二国土軸を形成し北日本第三の青函経済文化圏形成のために

は高速交通体系の整備が最大のポイントでもあることから会議では、新幹線盛岡～函館間の早期建設が大きくとり上げられました。

またJRR津軽海峡線函館・青森間の輸送力増強とスピードアップ化

のための複線化や空港の相互利用の可能性等についても関係機関に働きかけることを決定いたしました。

また、青函経済サミットについては二十一世紀の青函経済圏の形成に向けてどう進むべきかをテーマに両市の経済団体等のトップの方々にご参加を頂き、平成三年二月八日函館市において開催することになりました。

その他、調査研究事項としては、シベリアとの人的・物的交流の可能性についての研究、冬期観光の振興、ニューメディアの推進と相互交流等がとりあげられました。

尚、シベリアとの交流の可能性については、先にソ連を視察されたみちのく銀行、大道寺頭取の講話があり、同頭取は「今後のシベリア極東地域との交流については発展の可能性が大きく、又、シベリアと青函圏を結ぶ観光ルートの開発等については大きな期待が出来る」と話され、今後両商工会議所で互いに調査研究することになりました。

函館繊維商組合
創立50周年記念式典挙行

去る十一月七日、函館繊維商組合（事務局本所内）の創立五十周年記念式典が函館ハービービューホテルにおいて開催されました。

当組合は昭和十六年、「函館繊維製品小売商業組合」として発足以来、繊維小売業界の健全なる発展と組合員の経済的地位の向上を目指し、各種講習会、組合員のための福利厚生等の事業を積極的に展開してきました。

式典には函館市、函館商工会議



所、繊維卸業界、大型小売店、金融機関の代表などの来賓を含めおよそ九十名が出席しました。

はじめに、主催者を代表して小笠原孝組合長より半世紀に及ぶ長い歴史を振り返りながら「情報化・国際化・個性化等の進展により、業界を取り巻く環境は益々複雑多岐になりつつあるが、今後も商店街の顔として、消費者ニーズに適合する店づくり等、業界活性化に努力し、地域経済の振興発展に貢

献したい」との挨拶がありました。続いて、永年にわたり組合の組織強化並びに業界の発展に貢献した組合員二十三名が記念表彰を受けました。

次に、来賓として招かれた木戸浦函館市長、川田函館商工会議所会頭、本間函館繊維製品卸商組合組合長よりお祝いの言葉があり、式典を終了しました。

引き続き記念祝賀会に移り、出席者一同テーブルを囲んで、この五十年の歴史を振り返りつつ和やかに懇談し、盛会のうちに閉会しました。

空・海の交通をゆぐる整備が順調に!!

当市は陸・海・空の交通の要衝として、北海道の発展に極めて重要な役割を果たしてきましたが、なかでも函館空港は千歳空港に次ぐ北海道の重要な幹線空港として、今後もその利用が大いに期待されております。

去る十月二十九日、同空港の旅客・貨物ターミナルビルの増改築工事竣工を祝し、函館空港ビルデ

ング（株）川田寛社長（本所会頭）をはじめ関係者多数が出席して記念式典及び祝賀会が開催されました。今回の増改築工事は、昨年七月の東京線のダブルトラックキングの実現や今年六月の大阪便の十八年振りの再開などにより、利用客数が過去最高であった昨年約百五十万九千人に対して、今年十月末ですでにこれを突破している状況

などから、施設の早急な整備が望まれていたことに対応したもので、到着ロビーの拡充や待合室の増築などが実現しました。

一方、この度東日本フェリー（株）では新たに函館―青森航路に高速艇ジェットフォイルを登場させました。

去る十一月八日には、この就航と金森倉庫前に建設されたターミナルの竣工を記念して、試乗会と祝賀会が開催され、本所からは川田会頭をはじめ高野・下郡山両副会頭が出席しました。

ジェットフォイルは船体の前後に水中翼を持ち、取り込んだ海水をジェットエンジンで後方に噴射して時速八十三キロで進む高速船で、その所用時間は従来のフェリーに比べ三分の一の時間四十分と現在の特急列車よりも早くなっています。

また、旅客定員は二百三十三名で夏期は三往復、冬期は二往復運行されることが決定し、愈々、青函航路も船と列車の競合時代となり、青函圏の交流に新たな一頁を加えることになりました。

事務局日誌

10月



***委員会**

- 3(火) 総務委員会
- 22(月) 函館・青森商工会議所青函圏特別委員会合同会議

***正副会頭会議**

- 15(月) 第54回正副会頭会議
- 31(水) 第55回正副会頭会議

***会議(道商連)**

- 16(火) 第17回運営委員会
- ” 第142回全道商工会議所専務理事・事務局長会議
- ” 「特定地域振興対策に関する意見交換」

***⑩審査会**

- 15(月) 小企業等経営改善資金の審査会
- 30(火) ” ”

***諸会議**

- 1(月) 所報「ともえ」No113(10月号)編集会議
- 2(火) 本所議員定数変更に関する北海道通産局との打合せ
- ” 北海道労働保険事務組合連合会「労働保険事務組合ブロック別研修会」
- 11(水) 北海道東北開発公庫の来年度予算に係る説明会
- ” 函館繊維商組合創立50周年記念式典実行委員会
- ” 国立函館大学誘致促進期成会第8回学部検討委員会
- 12(金) 函館シーポートプラザ役員会
- 13(土) 函館市街地再開発協会「現地視察並びに第1回函館駅周辺地域地区更新基本計画策定委員会」
- 16(火) 日本商工連盟北海道連合会懇談会
- ” 婦人会例会
- 19(金) 函館繊維商組合役員会
- 23(火) 渡島・松山地域雇用開発会議
- ” 第2回渡島広域圏地域経済活性化対策推進委員会
- 24(水) 青森・函館ツインシティ推進協議会第1回部会
- 25(木) みなみ北海道広域商工振興連絡協議会
- 26(金) 開港131周年記念函館港まつり反省総会
- ” 函館公共職業安定所「雇用主懇談会」
- 29(月) 第2回函館市住居表示審議会
- 30(火) 議員会役員会
- 31(水) 函館税務署「函館地区税務指導協議会」

***陳情・要望**

- 19(金) 寝台列車「トワイライト・エクスプレス」の函館停車並びに運行の増発に係る要望

***講習・催物**

- 2(火) 複式簿記講習会(基礎コース)
- 4(水) 道通産局「流通情報システム化全国セミナー」
- ” 函館財務事務所「前払式証券の規則等に関する法律の施行に伴う説明会」
- ” 複式簿記講習会(基礎コース)
- ” 記帳講習会
- 4(水)~10(水) '90渡島地域ニューフロンティア・フェスティバル
- 9(火) 複式簿記講習会(基礎コース)
- 10(水)~15(月) 第13回おいでやす大京都市まつり

- 11(水) 記帳講習会
- 12(金) 複式簿記講習会(基礎コース)
- 15(月) 函館公共職業安定所「高齢者雇用促進運動」
- 16(火) 複式簿記講習会(基礎コース)
- 18(水) 記帳講習会
- 18(水)~23(火) 第36回函館地方児童生徒発明工夫展
- 19(金) 複式簿記講習会(基礎コース)
- ” 函館地方方法人会青年部他主催「国際文教都市への提言」フォーラム
- 23(火) 複式簿記講習会(基礎コース)
- 23(火)~27(土) 五十嵐英寿写真展
- 25(木) 商業活性化セミナー「消費者からみた良い店・悪い店」
- ” 記帳講習会(最終日)
- 25(木)~30(火) 第3回出羽の庄内鶴岡市観光物産展
- 26(金) 複式簿記講習会(基礎コース最終日)
- ” 法律相談
- 27(土)~29(月) 第10回みんなの消費生活展
- 30(火) 複式簿記講習会(検定コース・実務コース)
- 31(水) ” ”

***検定試験**

- 3(水) 第18回2級販売士検定試験
- 7(日) 第6回1・2級ワープロ検定試験
- 28(土) 第130回珠算能力検定試験
- ” 4級ワープロ検定試験

***刊行物**

- 22(月) 所報「ともえ」No113(10月号)発行

***相談・診断**

金融	155	税務	25	経理	12	経営	127
労働	6	取引	2	その他	1	計	328

***貸室**

本館	7	別館	4
----	---	----	---

***文書**

受信	238	発信	10
----	-----	----	----

***慶弔・その他**

- 1(月)~6(土) 経営指導員研修(経営戦略と経営計画のたて方)
- 2(火)~4(木) 第25回全国観光土産品公正取引協議会山梨大会
- 4(木) '90渡島地域ニューフロンティア・フェスティバル開会式
- 8(月) 「第4回ツール・ド・北海道」前夜祭
- ” 函館市「第4回ツール・ド・北海道」小宴
- 9(火) 第13回おいでやす大京都市まつりキャンペーン表敬訪問
- 10(水) 感動市場函館会場開会式
- 16(火) 日本航空㈱利光松男社長就任披露宴
- ” 札幌テレビ放送函館放送局新局舎落成記念パーティー
- 23(火) 故相馬哲平本所元副会頭告別式
- ” 函館市「ファンタジー・フラッシュ・タウン点灯式」
- 24(水) 第3回鶴岡市観光物産展キャンペーン表敬訪問
- ” 鶴岡市観光物産展交流会
- 25(木) 都甲北海道担当命全権大使(駐道大使)ご夫妻を囲む懇談会
- 25(水)~11/6(火) 「函館市日中経済交流促進代表団」による訪中
- 26(金) 相馬㈱新社長表敬訪問
- ” 北海道菓子卸業組合函館支部永年勤続優良社員表彰式
- 29(月) 函館空港ビルテック㈱「函館空港施設増改築工事竣工式典・祝賀会」
- ” 青森市市制施行90周年記念事業青森産業会館落成祝賀会
- 30(火) 桜井外治道議会議員を励ます会
- ” 東北六県商工会議所連合会他主催「第二国土軸推進シンポジウム」

も、家具・建材関連需要を主体にますますの生産を続けている。一方漁網では、北大西洋地域向け刺網輸出等が持ち直し気配にあるものの、内需が引き続き鈍化傾向を辿っており、全体では前年を下回る生産を続けている。この間、漁網関連原材料価格が、原油高を背景に徐々に上昇しているため、収益面への影響を懸念しはじめている状況。

(4)建設関連

9月の公共事業発注額は、一部地公体の発注後ずれから前年を幾分下回る規模（管内主要5官庁の9月末進捗率80.4%〈前年同86.1%〉）。一方民需は、工場増築、オフィス用ビル建設を中心に順調に推移しているほか、新設住宅着工戸数も分譲マンションを中心に高水準を維持している。

(5)農・漁業

農作物の収穫は、主力水稲をはじめ殆どの作物が「良」または「やや良」の作柄でほぼ終了。

近海マイカ漁は、水温の上昇を背景に依然不冴え裡に推移しているものの、秋サケ定置網漁が前年を上回る水揚げを続けているほか、真コンブの採取も平年並みを確保。

この間、当地漁撈筋の中には、原油高に伴う燃料費負担増加を危惧する先も散見されはじめている。

(6)消費関連

市内大型小売店（10か店）売り上げをみると、9月は身回り品や宝飾品等雑貨の好伸を主因に前年比+4.8%の増加を示し、10月入り後も総じて堅調裡に推移。耐久消費財については、家電販売は、暖房・情報機

器等の順伸から全体では若干ながら前年を上回る売れ行きの一方、9月の自動車販売は、普通乗用車を中心に1年4か月振りに前年割れとなった（新車販売台数前年比△4.2%）。観光・レジャー面では、修学旅行生等団体客の入込み増加を主因に好調裡に推移しており、先行き冬場の宿泊予約も順調な滑り出し。この間、自動車ディーラー、ホテル等の一部では、金利上昇等を背景に設備投資姿勢を徐々に慎重化させる向きも散見。

3. 金融事情（9月中）

- 実質預金は、個人預金が自由金利預金を中心に順調な増加を示したほか、公金預金も交付金流入等から前年を上回る増加となったものの、法人預金が企業の金融費用軽減を企図した流動性預金の取崩しを主体に不冴え裡に推移したため、月中230億円増と前年(254億円増)を下回る増加に止まった。一方貸出は、水産加工の原魚買付資金や建設での運転資金等を中心に堅調に推移したため、月中206億円増と前年(196億円増)を幾分上回る増加となった。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、長プラの引き上げ(9/3、7.9→8.5%)や新短プラの利上げ浸透等を映じ、月中+0.174%と18か月連続の上昇となった。
- 銀行券は、観光客の入込み増加に伴う行楽資金等の順調な還流から、月中61億円の還収超となった（前年同55億円）。
- 財政収支は、郵便局の支払が引き続き増加したものの、公共事業関係費の支払が前年を下回ったほか、租税、保険の受入れも多額に上ったことから、月中116億円と前年(99億円)を上回る受超となった。

地域の

景気

— 日本銀行函館支店 —

1. 概 況

○最近の管内経済動向をみると、景気は内需堅調等を背景に総じて好調に推移しており、雇用情勢も引き続き引き締り傾向を辿っている。

○すなわち、製造業では、漁網等の売り上げ・生産が鈍化しているものの、水晶振動子、一般機械、セメント、半導体がフル生産を続行、水産加工、段ボール、乳製品も前年を上回る生産を維持している。また造船も、新造船の建造着手等から操業度を引き上げている。

一方非製造業では、建設が引き続き繁忙を呈しているほか、百貨店売り上げが順伸、家電もまざまざの売れ行きを示しているが、9月の自動車販売は久方振りに前年を下回った。観光関連では、夏季シーズン終了後も修学旅行生等団体客を中心に好調な入込みを続けている。

こうした状況下、今次原油価格高騰に伴う管内企業等への影響を窺うと、石油依存度の高い一部先では収益圧迫を懸念する声が聞かれるものの、総じては平静に受け止める向きが多い。

○9月の金融動向をみると、預金は、個人預金の順調な増加にも拘らず法人預金の不振

が響き前年を下回る増加に止まった。一方貸出は、増運需資を中心に総じて堅調に推移したため前年を幾分上回る増加。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、長プラの引き上げや新短プラの利上げ浸透等を映じ引き続き上昇した。

2. 主要業種別動向

(1)機 械

半導体では、情報関連機器向け等を主体にフル生産を続行、水晶振動子も、旺盛な国内通信機器需要を背景に繁忙裡に推移している。また、合板機械が東南アジアにおける更新需要等の盛り上がりから、製缶機械が国内の飲料品需要の増加等から、それぞれ高水準の受注残を抱え、フル生産態勢を続けている。造船でも、新造船の建造着手等から操業度は徐々に上昇しており、新規受注も引き続き堅調。

(2)食 料 品

水産加工では、年末需要期入りを前に繁忙感を強める先が多く、パート等中途採用にも前向きで、パート賃金も幾分強含みに推移しはじめている。また乳製品でも、本州向け飲用乳の引き合い増加から前年を上回る生産・出荷を持続。飼料・魚油では、主力飼料は市況軟化を睨み出荷を抑制しているが、魚油、養殖用餌料の輸出は引き続き堅調。

(3)その他製造業

セメントは、首都圏におけるウォーターフロント開発需要等の好伸からフル操業を持続、段ボールも、水産加工向け等を中心に生産・出荷とも順調に推移。また合板で

細業種でみると、総じて明るい見方をしており、特に年末需要期を迎える水産加工業と飲食料品業では今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、生産活動活発化が見込まれる。

【卸売業】

今期比D I 28.7、前年同期比D I 29.3といずれもD Iがプラスを示し、業績好転が見込まれる。

細業種でみると、織物・衣服・身の回り品業が業績悪化を予想している以外は、飲食料品業、医薬品・化粧品業、燃料業、一般機械器具業等いずれも今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、好転基調が見込まれる。

【小売業】

今期比D I 11.6、前年同期比D I 7.3と、いずれもD Iがプラスを示し、売り上げ増が見込まれる。

細業種でみると、衣服・身の回り品販売業では業績悪化を予想する企業が多くなっているが、他は総じて売り上げ増が見込まれ、特に各種商品販売業、飲食料品販売業では今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示して

いる。

【サービス業】

今期比D I 10.0、前年同期比D I 20.0といずれもD Iがプラスを示し、売り上げ増が見込まれる。

細業種でみると、自動車整備業以外はすべて今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示しており、特にオフシーズンを迎えるホテル・旅館業や娯楽業においても、更に業績好転を見込んでいる。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とする企業3.7%に対し、「悪化」とする企業7.5%で、D Iは△3.8と若干マイナスを示しているが、「変わらない」とする企業が88.8%を占め、ほぼ今期並みに推移される見通しとなっている。

これを業種別にみると、建設業D I 11.1、製造業D I △2.6、卸売業D I △9.8、小売業D I △6.8、サービス業D I 0.0を示しているが、各業種とも80%以上の企業が「変わらない」と回答している。

統 計 資 料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高 (10店) 平成2年9月

品 名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣 料 品	2,912,234	124.0	99.0
身 回 品	662,872	115.2	118.6
雑 貨	698,068	99.5	117.8
家 庭 用 品	696,190	104.9	96.0
食 料 品	1,642,720	81.0	108.7
食 堂 ・ 喫 茶	155,716	78.2	95.3
サ - ビ ス	149,694	139.3	159.9
そ の 他	463,465	85.1	104.9
総 計	7,380,959	103.0	105.0

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ダイエー五稜郭、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ダイエー湯川店の各店をいう。

業種別にみても、各業種とも70%以上の企業が「変らない」と回答している。

5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、「求人難・人材難」をあげる企業が全業種で28.0%と引き続きトップを占め、次いで「売上げ・受注の不振」が17.3%となっている。

次に問題点を業種別にみると、建設業では「求人難」28.5%、「資材の値上り」14.3%。

製造業では、「求人難」33.3%、「売上げ・受注の不振」21.4%、「原材料高」14.3%、「人件費等経費の増加」・「純利益の減少」がそれぞれ11.9%。

卸売業では、「流通経費の増加」21.4%、「売上げ・受注の不振」19.0%、「人件費の増加」16.7%、「仕入商品の値上り」14.3%、「純利益の減少」11.9%。

小売業では、「求人難・人材難」34.2%、「売上げの不振」22.7%、「人件費の増加」13.6%。

サービス業では、「求人難・人材難」47.3%、「人件費の増加」15.8%、「客足の減少」・「同業者の競合」がそれぞれ10.5%。

来期（10月～12月）の見通し

1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種で見ると、今期に比べ「好転」とみる企業23.3%に対し、「横ばい」企業63.3%、「悪化」とみる企業13.4%でD Iは9.9とプラス、また前年同期比でも「好転」とみる企業16.9%に対し、「悪化」とみる企業が12.0%でD Iは4.9とプラスを示し、好転が見込まれる。

業種別にみると、今期比では、建設業D I 0.0、製造業D I 28.9、卸売業D I 2.3、小売業D I 4.7、サービス業D I 5.0と、特に製造業が好転を見込んでいる。

また、前年同期比で見ると、卸売業（D I △2.5）と小売業（D I △4.9）以外はD Iがプ

ラスを示している。

このように来期業況見通しは、業種間にはやや格差をみせているものの、総じて好転基調が予想される。

図-5 来期の業況見通し（対前年同期比）

(D.I) 好転 横ばい 悪化

全業種 (4.9)	16.9	71.1	12.0
建設業 (9.5)	19.0	71.5	9.5
製造業 (13.9)	18.6	76.7	4.7
卸売業 (-2.5)	14.8	68.3	17.1
小売業 (-4.9)	12.2	70.7	17.1
サービス業 (15.0)	25.0	65.0	10.0

2. 売上額について

来期の売上げ見通しを全業種で見ると、今期に比べ「増加」とみる企業38.7%に対し、「横ばい」企業44.7%、「減少」とみる企業16.6%でD Iは22.1とプラスを示しており、前年同期比でも「増加」企業31.4%に対して「横ばい」企業57.3%、「減少」企業11.3%でD Iは20.1とプラスを示し、増額基調が見込まれる。

図-6 来期の売上げ見通し（対前年同期比）

(D.I) 増加 横ばい 減少

全業種 (20.1)	31.4	57.3	11.3
建設業 (35.3)	41.2	52.9	5.9
製造業 (17.5)	22.5	72.5	5.0
卸売業 (29.3)	43.9	41.5	14.6
小売業 (7.3)	24.4	58.5	17.1
サービス業 (20.0)	30.0	60.0	10.0

次に来期の売上げ見通しを業種別にみると、

【建設業】

今期比D I 27.8、前年同期比D I 35.3といずれもD Iがプラスを示し、引き続き工事量増加が見込まれる。

細業種で見ると、総合工事業、職別工事業、設備工事業ともに増額を予想している。

【製造業】

今期比D I 30.0、前年同期比D I 17.5といずれもD Iがプラスを示し、増産態勢が見込まれる。

年同期比D I 28.6と、いずれもD Iがプラスを示している。

細業種でも、引き続き各業種とも増額基調で推移した。

このように今期の建設業界は、公共事業が一服状態ながら、大型物件を中心にした民需の伸びもあり、活発に推移した。

【製造業】

今期の生産額は、前期比D I 16.2、前年同期比D I 14.3と、いずれもD Iがプラスを示し、高操業を維持した。

細業種でみると、漁網業等一部で低調な以外は総じて生産活動が活発化しており、特に水産加工業、飲食料品業、窯業・土石製品業では前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示している。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比D I 54.8、前年同期比D I 38.4を示し、いずれも過半数の企業が「増加」と回答している。

細業種でみると、医薬品・化粧品業でやや業績が悪化している以外は総じて上向いており、特に飲食料品業、一般機械器具業、建築材料業では前期比、前年同期比ともにD Iが大幅にプラスしている。

【小売業】

今期の売上額は、前期比D I 25.0、前年同期比D I 14.7と、いずれもD Iがプラスを示している。

細業種でみると、これまで好調を維持してきた自動車販売業がやや厳しい見方をしているが、他は各種商品販売業、衣服・身の回り品販売業、飲食料品販売業等いずれもD Iがプラスを示し、順調に売り上げを伸ばしている。

【サービス業】

今期の売上額は、前期比D I 45.0、前年同期比D I 42.2と、いずれもD Iのプラス幅を拡大し、更に上向いた。

細業種でみると、自動車整備業がやや低調ながら、ホテル・旅館業、クリーニング・理美容業、娯楽業は引き続き増額基調にあり、特に観光シーズンを迎えた関連業種には「減少」と回答する企業もなく、観光客入込みの好実績が窺われる。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (-2.9)	23.7	49.7	26.6
建設業 (-4.8)	19.0	57.2	23.8
製造業 (-2.2)	20.5	56.8	22.7
卸売業 (-12.2)	24.4	39.0	36.6
小売業 (-4.7)	18.6	58.1	23.3
サービス業 (20.0)	45.0	30.0	25.0

3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業27.1%に対して、「横ばい」企業51.7%、「減少」している企業21.2%でD Iは5.9と若干プラス、また前年同期比では「減少」企業26.6%が、「増加」企業23.7%を上回ってD Iは△2.9と、若干マイナスを示し、採算面はほぼ横ばい状態で推移した。

業種別にみると、サービス業では前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、増益基調で推移した。

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業8.0%に対し、「悪化」した企業9.8%でD Iは△1.8を示しているが、「変わらない」とする企業が82.2%を占め、ほぼ前期並みに推移した。

図-4 今期の資金繰り (対前期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (-1.8)	8.0	82.2	9.8
建設業 (16.7)	16.7	83.3	0.0
製造業 (-2.5)	2.4	92.7	4.9
卸売業 (-9.8)	7.3	75.6	17.1
小売業 (-6.9)	4.7	83.7	11.6
サービス業 (10.0)	20.0	70.0	10.0

経済の窓

(平成2年度 第2・四半期)

景気動向

調査

平成2年度第2・四半期(平成2年7月～9月)の函館地域における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	320社	213社	66.6%
建設業	40	27	67.5
製造業	80	54	67.5
卸売業	70	50	71.4
小売業	90	55	61.1
サービス業	40	27	67.5

(注)本調査結果の中のD Iとある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目について増加(好転・上昇)企業割合から、減少(悪化・低下)企業割合を差し引いた値を示しています。

今期(7月～9月)の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種でみると、前期に比べ「好転」している企業36.0%に対し、「横ばい」企業51.8%、「悪化」している企業12.2%で、D Iは23.8とプラスを示し、好調を維持している。

これを業種別にみると、建設業D I 9.5、製造業D I 13.6、卸売業D I 39.5、小売業D I 13.6、サービス業D I 50.0と、いずれもD Iがプラスを示している。

また、今期の業況を前年同期比でみると、全業種では「好転」企業32.3%に対し、「横ばい」

企業57.5%、「悪化」企業10.2%で、D Iは22.1とプラスを示し、好転している。

これを業種別にみると、各業種ともD Iがプラスを示しており、特にサービス業(D I 50.0)が好調感を増している。

このように今期の業況は、建築関係は民需を中心に活発で、生産活動や個人消費も順調、また観光関係では好調に推移した昨年実績を更に上向る勢いをみせる等、総じて引き続き拡大基調で推移した。

図-1 今期の業況(対前年同期比)

	(D.I) 好転	横ばい	悪化
全業種(22.1)	32.3	57.5	10.2
建設業(23.8)	28.6	66.6	4.8
製造業(18.2)	25.0	68.2	6.8
卸売業(29.2)	39.0	51.2	9.8
小売業(4.9)	22.0	60.9	17.1
サービス業(50.0)	60.0	30.0	10.0

2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種でみると、前期に比べ「増加」している企業45.9%に対し、「横ばい」企業41.2%、「減少」している企業12.9%で、D Iは33.0プラスを示し、増額基調で推移した。

また、今期の売上額を前年同期比でみると、全業種では「増加」企業38.3%に対し、「横ばい」企業48.7%、「減少」企業13.0%で、D Iは25.3とプラスを示し、引き続き昨年実績を上回った。

図-2 今期の売上額(対前年同期比)

	(D.I) 増加	横ばい	減少
全業種(25.3)	38.3	48.7	13.0
建設業(28.6)	38.1	52.4	9.5
製造業(14.3)	26.2	61.9	11.9
卸売業(38.4)	53.8	30.8	15.4
小売業(14.7)	29.3	56.1	14.6
サービス業(42.2)	52.7	36.8	10.5

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I 28.7、前



店舗の色の基本は二色以内

再開発でも古いものを残そう

— 地方における商店街 活性化の思想と切り口② —

庄司経営開発事務所 中小企業診断士 庄司 俊雄

思想が確立されたら、実行の段階で一番大事なものは、よく分かる明快な「切り口」である。リングはどれを見ても似たりよつたりの形をしているが、これを縦に切るか、横に切るか、斜めに切るかでその表面は全く別のものと思えないほどに変わってしまう。

切り口① ひと目、見ただけで見事と言われる商店街

我々は三十年間もテレビを見て暮らしてきた。三十歳以下の若者達は生まれた瞬間からテレビ、ビデオ、マンガ、イラスト等の映像に囲まれて生きてきたのである。

何事もゴチャゴチャと説明しなければ、良さを分かってくれえないということでは、現代社会では通用しない。逆に言えば、若い世代ほど「ひと目で」その良さを見抜く感性がある。

だから、これからの商店街はひと目見ただけで「あついいな」「おお素敵」「ちよつとシャレテルね」「なあるほどね」「このマチらしいね」「センスがいいね」と言われるようなテーマ・シンボル・イメージを明快に表現していかねばならない。そのためには……

1 要素を限定すること

店舗が群をなして、素敵なお店街並みを形成するためには、形、

素材、色などを限定して群としての統一感をつくること。特に色彩について言うならば、新興住宅地の家や屋根の色が赤、青、白、緑……等、色とりどりに広がっている様子は決して美しいものではなく混乱としか言いようがない。店舗の色の基本は二色以内にとどめるといことが、まとまりのある落ち着きを見せることにつながる。

2 屋根のデザインを統一すること

屋根は商店街全体のスカイラインを美しいものにする大切な要素である。商店街には様々な業種があるので、正面ファサードまで統一してしまうことはかえって没個性につながるが、屋根は業種を越えて、色・形・素材を統一することで美しい街並みづくりが可能になる。

3 一見、無駄な空間こそ生かすこと

商店街の中にある・地割りが悪く残された場所・道と道の交わる三角地・スミ切りした後の変形地・商店街裏の廃屋跡地：こういう場所を乱雑に放っておくべきではない。商店街のたがずまいにゆとりを与える大切な空間として手入れし、清掃し、花樹を植え修景を施すこと。

店舗と店舗の間にある小路とも言えない隙間があり、ここに

廃材などが放置され悪臭が漂っているケースも多い。これもきちんと整理し、小さくても美しい統一フェンスをつけることで商店街の魅力的なアクセントに変身するのである。

4 表情豊かな商店街にすること

地方の歴史の古い商店街では、老木、道標、石垣、石造倉庫蔵、道祖神、祠(ほこら)、お稲荷さん、お地藏さん、古いが格調ある家、古い問屋の看板等が残っている。これらのものを再開発の名のもとに破壊してはいけない。ちよつとした修復と修景を加えることで、その土地らしさを見事に表現することができる。商店街に表情が出てくる。

5 駐車場もやすらぎの空間

車社会は二十一世紀も続くと言われている。特に駐車場のない商店街に発展はないと思われる。できれば、車を横づけにして買い物したいというドライバーの心理を考えれば、中小の駐車場が商店街に点在しているのが最もドライバーの心理にかなっている。

しかし、その駐車場の奥や両側の建物の楽屋裏が丸見えになつていゝのでは殺伐とした風景になつてしまう。周囲に枝葉が密集する種類の樹木を数多く植え、覆壁の役割を果たすようにすると、駐車場もまた、美しい緑とやすらぎの空間に変身させることができる。

切り口② スパイスのある商店街

春には春らしい、夏には夏らしい発見がある商店街はすばらしい。おいしい料理には必ずほどよいスパイスが入っていると同じように、商店街にもスパイスの役割を果たすような広場を創ることで一段と魅力を増す。

そこは、固定化せず、常にどのような形にでも変化しうる仕掛けをしておかねばならない。「商店街のある広場にはいつも何か目新しいものがある。季節の移ろいと旬がある。何か漠然とした期待がある」と人々に言われるようになったら大成功である。

固定化し過ぎないということは、舞台を創ると同じ発想であ

る。大道具、小道具を変えただけで海にも、山にも、城にも、お寺にもなる。そのためには、創つてしまつてから、その利用法を考えるのではなくて、設計の段階ですでに、その広場を春夏秋冬や地域の行事等に合わせてどのように演出し、何をやるのかということ想定し、ミゾ、穴、コロ、フック、リールをはめ込み、取りはずし、塗り替え、上げる、下げる、ふさぐ、ずらす、埋める、囲う……等、様々に変化可能な仕掛けを施しておくことが肝心である。

切り口③ 無用の用を大切に作る商店街

現代の建物はほとんどが能率、効率、合理主義に徹している。そこには遊び心やゆとりがほとんど感じられない。昔の銀行の建物などはエンタシス風の柱やレリーフ、バルコニー、ドームなど、本来の銀行の機能とは関係のない「無用の用」とも言うべきものにも意を用いている。だから時が経つほど美しくなるのである。完成したときが一番美しく立派だという商店街づくりの時代は終わった。最初少々割高になつても時が経つほど、そのマチの風土になじんできると。そのマチらしさが出てくる。人々が誇るようになります。だから落ち着ける、憩える、温かい、懐しいと言われるような商店街づくりをすることによって、金銭では計れない個性的価値が生まれ、歴史が人々の心に宿るのである。

(おわり)

【庄司俊雄】(しょうじ・としお)氏の略歴

昭和14年北海道・小樽生まれ、昭和38年小樽商科大学短期大学部卒業、小樽市役所勤務を経て、昭和56年庄司経営開発事務所設立、現在に至る。昭和62年東京連絡事務所開設。中小企業大学校東京校講師(情報診断士コース)

主な著書に「生き残りをかけた大型店対策」(誠文堂新光社)、「商店の計数管理ノート」(同)、「商店の経営計画ノート」(同)、「儲かって笑いのとまらない商店街の研究」(エール出版)など多数。